

三加茂中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①失敗を恐れず多様な事柄に挑戦し、確かな学力を身につけた生徒の育成
- ②探究心に燃え、自ら学び、自ら考える力を備えた心豊かな生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 担当者	委 校長 松尾正規	1年担当教員
	員 教頭 細川誠治	2年担当教員
	員 教務主任	3年担当教員

校長 松尾 正規

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

各校のHP閲覧や管理職による授業参観、教員からの報告等、様々な機会をとらえ、取組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に積極的に参加し、朝の学習課題にも真剣に取り組むことができ、日々の生活記録も継続できている。学習規律が整っている。 ●個々の課題を自主的に行うことができない。読解力不足で、作文などの文章を構成する活動が苦手な生徒が多い。学力の二極化が見られる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・正しい言葉で文章を書いたり、正確に読みだすことができる。 ・タブレット等の正しい使用と活用ができ、充実した個別学習ができる。 ・既習事項と関連付けて他の学習や生活の場面に活用することができる。	・授業の「めあて」と「振り返り」を明確にし、何を学び・何がわかったのかを的確に理解させる。 ・タブレット学習で個別学習の場を設定し、個に応じた指導の充実を図る。 ・教員の指導力向上のために、相互に授業参観する機会を設定する。 ・読書活動の推進			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○方法や表現の仕方の例が明示されると、意欲的に取り組むことができ、自分の考えも明確に表現できる。 ●じっくりと課題と向き合い、深く考える力や聞き取ったことを正しく理解して、判断し、伝えるための表現力や語彙力が乏しい。	・各課題に興味を持ち、解決するために、粘り強く取り組むことができる。 ・自分の想いや考えを、自分の言葉でわかりやすく伝えることができる。 ・自他の意見を比較して考えを深める学習に主体的に参加できる。	・多面的な協働学習(班・ペア学習・ディスカッション等)を実施して、言語活動の充実と対話的で深い学びを実践できる工夫をする。 ・研究授業や相互授業参観を行う。タブレット活用して相互の思考の可視化を図るなど、話し合い活動などにおける指導力の向上に努める。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業、実験や実習などに意欲的に参加できている。週1回の放課後学習で、基礎内容を定着させたいと努力できている。 ●メディアに依存しすぎる傾向にある。話をきちんと聞く習慣や家庭学習の習慣が身に付いていない。	・失敗を恐れず主体的・積極的に多様な活動に取り組むことができる。 ・目標に向かって努力することに、喜びや楽しさを感じることができる。 ・PDCAサイクルによる学習プランの実行で学力を伸ばすことができる。	・週1回CSと連携して放課後学習を実施し、基礎基本の定着を図る。 ・キャリア教育を推進し、目標を持って生活できるようにする。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業実践に取り組む。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

